

令和5年度 芦別市総合庁舎建設基本計画（案）に対する意見

意 見	
1	総合庁舎整備に関する検討経過及び今後の検討内容を市民と情報共有するほか、取りまとめの主体を市民が担い、作業の進捗管理・内容確認・情報共有発信を市が行なうこと。
2	現在の基本方針は、市民にとって身近なものになっていなく、一般的な総合庁舎の「機能の概要説明」になっていることから、再度基本方針を見直し、市民感覚にあった表現に改訂する。また、その際には改訂案の公募を取り入れること。
3	庁舎建設の3つの事業手法は、基本設計段階でプロポーザル導入方法に違いがあるのか。また、基本設計では、どのようなプロポーザル方式を採用する計画なのか。
4	総合庁舎整備事業は、市民生活に重要な影響を及ぼすことから、まちづくり基本条例に基づき、実施設計、積算・調整・確認申請、建設工事、解体工事の各段階において、市民説明会とパブリックコメント等市民との対話の場を設定すること。
5	本年7.8月に発生した課税ミスに対し、市長は「市民の信頼を損なった」とコメントしているが、総合庁舎整備事業に対する信頼も損ねかねないと危惧する。本事業への信頼を維持するための考えを教えてください。
6	<p>芦別市の行政のデジタル化を先行することで、行政コストの削減を実施し、財政確保を担保した後に策定する建設計画でも問題はない。建設計画には次の三点を基に、次世代のデジタル社会に対応した機能と長寿命化を融合したコンパクトな新庁舎を構築すべきである。</p> <p>①市民参加：未来の受益者である、若い芦別市民の意見や提案を積極的に取り入れ、新庁舎の計画を練り直す必要がある。</p> <p>②地域資源の活用：地元の木材を最大限に活用し、デザイン的、歴史的価値がイメージでき、長寿命化を目指す新庁舎を計画すべきである。</p> <p>③行政のトータルコスト削減と利便性：新築した近隣自治体と比較してトータルコストを低く抑え、市民の利便性を最優先に考慮することが重要である。</p>
7	<p>芦別に住み続けられる根拠を市民に示すためにも、老朽化だから建て替えるのではなく、庁舎建設が将来にわたり市や市民にとって価値があるものとするためにも、現在の庁舎建設計画の見直しを求める。</p> <p>改めて、現在の庁舎建設を見直し、市民と協働で芦別市の強みを共有し、芦別市の価値を高めることを要望し意見とする。</p>

8	<p>市民からの意見が、庁舎内のみならず、市民検討委員会、市議会にオープンな場で検討していただいて、その結果が芦別市民にも公表されることで情報共有がなされ、新庁舎建設の市民の理解も深まり、そこからさらに様々な議論がなされ、市民参加と協働により新たな視点が生まれてくると考えることから、基本設計に入る前に現計画案を見直し、市や市民にとって有益となる、よりよい芦別市総合庁舎建設基本計画を作成するため土台を市民と共有し、市民協働参加のうえで、総合庁舎建設計画を作成し、よりよい芦別市なることを望みます。</p>
9	<p>今後、人口減少や高齢化が確実に進む芦別市において、まちのランドマークである総合庁舎が何の特色もないつまらないものになってしまうと、更なるまちの衰退を招き、魅力のない芦別市の象徴となりかねない考える。</p> <p>芦別市の基幹産業である林業が計画にはほぼ反映されていないので、導入実績のある木質バイオマスボイラーを活用したエネルギーを活用してはどうか。限られた財源での事業なので様々な制約はあると思うが、「置きにくい」のではなく未来の芦別市と芦別市民のために「新しい事へのチャレンジ」をしていただきたい。</p>
10	<p>基本的に建設計画には賛成ですが、財源や建て方など、もっと情報を収集し、新たな取り組みやこれからの芦別らしさ、象徴となる庁舎の建設を求める。他の老朽化した施設を見越したプランニングによるコンパクトシティを目指し、外観、コンセプト、素材、利用の仕方、全てに芦別らしさを象徴した庁舎建設を求めます。ありきたりな庁舎は望んでいません。</p> <p>また、庁舎建設には、市内の建築・土木だけではなく、飲食業、宿泊業、各種製造、小売業、農林業とオール芦別で関わりが持て、誇れる、足の運びやすい庁舎建設をお願いしたい。</p>
11	<p>市民議論が盛り上がっている貴重な機会に、ゼロベースで議論を行うことが重要。まちづくりの象徴として、「コンパクトシティ」化のため、中心市街地への都市機能の集約化を都市計画の引き直しも進めるなど、様々な計画の背骨にするほか、「こうなりたい芦別」に向けた挑戦を方針、計画、設計に取り入れて欲しい。</p> <p>また総合計画にも謳われる、市長の市政キャッチフレーズ「縮充」の集大成として、レガシーとなりうる「庁舎づくり」を目指して欲しい。</p>
12	<p>選ばれる芦別になるために、芦別らしさの追求をコンセプト、素材、見せ方、外観、使い方、業者選定など事業全般で行うほか、やるなら表面的でなく、徹底的にやり尽くし、市民や外部からもユニークだと評価されるものにし、建設はコストと市内経済のバランスを長期的視野で判断するほか、市内の事業者が主体的積極的に関りたくなる内容にすることにより、市内に売上・利潤が行き渡る形になれば、社会減を縮小するチャンスとなる。</p> <p>また、物価高騰、人手不足により、既に実勢価格が予定平米単価を大きく超えているが、せっかくの目玉事業が不調とならないように、平米単価と工期設定には十分な配慮をして欲しい。</p>

13	<p>今後の施設維持管理を考えると、運営管理する職員も、管理受託業者も担い手不足が加速し、集約化と多機能化により施設数を減らさないと官・民・市民皆が共倒れとなる。</p> <p>このため金融、買い物、手続き、文化、福祉医療などのライフラインを中心市街地の徒歩圏内に集中することにより、高齢者も若者も住み続けられるまちになり、地域経済の活性化、市のイメージアップとともに JR 芦別駅存続に寄与し、人口減にも交流人口増大にも貢献することから、機能の集約化・複合化を、官民協働の手段として利用してほしい。</p> <p>総合庁舎建設後も、文化施設、福祉施設、医療施設、教育施設など公共施設の更新が近い未来の難題として存在し、橋梁や上下水などインフラの更新もある中で、5年後に図書館と学校、10年後に市民会館、15年後に市立病院と福祉センターなど「縮充」の観点で前もって計画を整備し、将来の不安と負担を減らし、住み続けられる、若者が帰ってこられる芦別にするため、先を見越した集約化に積極的に取り組むべきである。</p>
14	<p>2080年頃まで使う新庁舎を使用するのは、今の子育て世代とその子供たち世代が中心となり、子育て世代の市民らと市職員若手とで「どんな芦別にしたい」「将来求められる公共施設」を協働で検討して次世代の育成を図り、PTA等の教育関係者、各種業界団体なども含めた官民一体となった検討組織づくりにより、組織や役職に囚われず、実務レベル、責任世代での議論をベースとして欲しい。</p> <p>計画の一時白紙によって無理に急ぐ必要が無くなり、社会もコロナ前後で大きく変わっており、時間の無いなかで計画を組み立ててきた市職員の皆さんの頑張りを無駄にしない為にも、ゼロベースの議論をここでしっかりと行い、次世代の不安や不満を解消することが必要ではないか。</p>
15	<p>市長に力強いリーダーシップを発揮していただき、将来に夢や希望を持てるような新庁舎の計画づくりと、目指す方向性を市民にわかりやすく明確に打ち出してほしい。</p>
16	<p>半世紀に一度のビッグプロジェクトである庁舎建て替えは、わがマチのアイデンティティを表現できる千載一遇のチャンスの場合でもあり、森林資源が豊かな「芦別らしさ」を木造・木質庁舎で体現できれば、シンボリックかつ市民も誇りを持てる中心施設になり得ます。</p> <p>市民の誇りを取り戻せるような、世間から注目される、意義のある建て替えにしてほしい。</p>
17	<p>当市も「ゼロカーボンシティ宣言」を行ったことにより、CO2の削減に寄与できる木材利用は必須になります。「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（通称：都市（まち）の木造化推進法）」も施行されているように、当市にとっては追い風の時代に入ったとも言えます。木のまちとして時代の先端を走る姿勢を堂々と見せてほしい。</p>

18	<p>基本計画においては建設地が防火地域であることから構造体として木造はすでに排除されておりますが、ここは防火地域も変更して木造建築にチャレンジするくらいの気概を持って取り組んでいただきたい。</p> <p>資材等の高騰など変動が激しい現状、本当にトータルコスト（工期その他）で見た時にRC造が本当に最適なのか、CLTなどの新建材を利用する価値はないのか、今一度検証をしていただきたい。</p>
19	<p>新庁舎は「木育施設」として、教育や愛郷心の醸成にも有効であると考えます。近年では国のウッドチェンジ施策や道のHOKKAIDO WOODの普及活動により、木とのふれあいを大切にする環境も作られてきている。上芦別小学校に現物の木の標本があるように、地域の「木とふれあい、木に学び、木と生きる」ことも大事な取り組みだと思っておりますので、市役所が標本となれば面白い。</p>
20	<p>東川小学校には滝澤ベニヤさんのペーパーウッドが使われていました。当市でも道の駅レストランには使用されていますが、庁舎にも何かしらの「芦別らしさ」を取り入れるご検討をお願いしたい。</p>
21	<p>本計画案において市民の理解を得るためにも、浄水場更新を同時に行う予定としつつも、現在の庁舎建設計画で芦別市が35億円まで出せるとした根拠と、返済の見通しについて回答を求めます。</p>
22	<p>現在の経常収支比率では、庁舎建設計画を進めた場合、市が示している将来ビジョンはなおさら実行できなくなると考えられます。</p> <p>市の将来ビジョンの具体的な実現やその成果が表れる時期は令和何年度ごろになるのかの回答を求めます。</p>
23	<p>基本計画案の基となっている基本構想の段階から計画内容やコンセプトが大きく変更されていませんが、令和2年度と比べ、コロナ後の令和5年度（現在）では、世の中は大きく技術が進歩し価値観も変わっています。時代に合わせたものとするためにも、現在の基本計画案の見直しが必要と考えますが、市の見解を求めます。</p>

24	<p>今まで投入していた行政コストを漠然とカットするのではなく、安くて手間がかからない新たな方法に切り替え、以前の価値観で考えられた利便性向上に合わせるのではなく、これからの価値観を見据えた利便性向上や市民生活に投資することが芦別市の存続につながると考えられますが、市の見解を求める。</p>
25	<p>建物の老朽化に伴い、建替えがいずれ必要となるという必要性は理解できますが、過疎化が進み、地震が来ないとされている芦別市において、技術革新が進んでいる中、令和2年度作成の過去のものとなった技術や価値観の上で組み立てた現在の計画を急いで進めなければならないという必然性はないものと考えられる。</p> <p>新たな価値観の時代に柔軟に対応した上で、コストミニマムを図り、デジタル推進を最優先とした、芦別市の身の丈に合った庁舎建設計画案の作成を求める。</p>

※ 芦別市総合庁舎建設基本計画（案）に関する意見：7名 25件